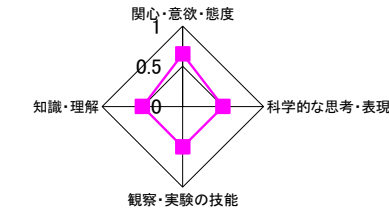


内容別・観点別の分析

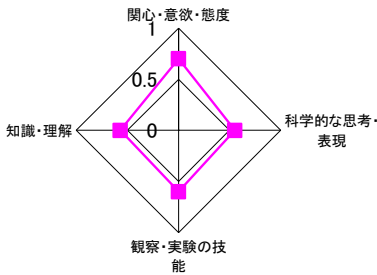
(様式2)

1年	観点別平均達成率
関心・意欲・態度	65%
科学的な思考・表現	50%
観察・実験の技能	50%
知識・理解	50%



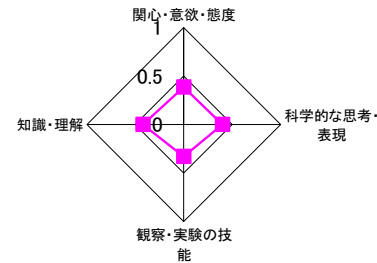
定期考査及び7月までの指導状況の分析

2年	観点別平均達成率
関心・意欲・態度	70%
科学的な思考・表現	55%
観察・実験の技能	60%
知識・理解	57%



定期考査及び7月までの指導状況の分析

3年	観点別平均正答率
関心・意欲・態度	39%
科学的な思考・表現	40%
観察・実験の技能	33%
知識・理解	42%



定期考査及び7月までの指導状況の分析

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充学習等の計画

(様式3)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	知識・理解の定着を図りながら、科学的な思考力の向上を意識した授業展開を多く取り入れていく必要がある。表現力を高める設問や実験・観察を取り入れていき、自ら考え、表現する能力の向上が図れる指導法の工夫が必要と考える。	デジタルコンテンツなどを利用した提示教材の構造化等を進め、導入教材の工夫をする。大画面による教材提示を多用し、興味、関心、意欲を高める。授業の中で、対話をしながら科学的思考力に関わる問題を多く取り上げ、時間をかけて追究する学習形態にする。観察の結果を画面で表示したり、実験の結果のノートの評価を通して技能や表現を向上させる。	小学校で学んだことを確認しながら、基礎基本の定着を図る。教科書や資料集の発展課題を取り上げ、実験・観察や演示実験等により関心、意欲を高める。理科ノートの点検を通して、個別の課題を指摘し、向上を図る。NHK for Schoolの学習教材を適宜使用し、更に意欲を高める。
2年	「科学的な思考・表現」がやや苦手である。協力して実験を行うことや結果について話し合いをもつことが苦手である。 「知識・理解等」の学習から更に、思考力・表現力を高めていくための指導方法の工夫が必要である。観察、実験などの技能や結果のまとめ・表現を充実させることが課題である。	デジタルコンテンツなどを利用した提示教材の構造化等を進め、導入教材の工夫をする。大画面による教材提示を多用し、興味、関心、意欲を高める。授業の中で、対話をしながら科学的思考力に関わる問題を多く取り上げ、時間をかけて追究する学習形態にする。観察の結果を画面で表示したり、実験の結果のノートの評価を通して技能や表現を向上させる。	既習事項を確認しながら、基礎基本を繰り返す。教科書等の発展課題を取り上げ、実験・観察や演示実験等により関心、意欲を高める。理科ノートやワークブックの点検を通して、個別の課題を指摘し、向上を図る。NHK for Schoolの学習教材を適宜使用し、更に意欲を高める。第一学年の復習についてはドリルを使用する。
3年	どの単位に対しても、知識・理解について定着が不十分である。そのため、科学的に思考する能力、表現力についても、低い結果となっている。自ら考え、表現する能力の向上が図れる指導法の工夫が必要である。	知識・理解の定着に加えて、それが身近な事物・現象とどのような関わりがあるのか考えさせる実験・観察を工夫し、結果を充分に考察させる中で科学的思考の能力、表現力をさらに向上させる。	9年間のまとめとして、既習内容を生かし、自ら課題を設定し、主体的に取り組むことのできる「課題解決的な学習」の展開を取り入れる。学ぶ意欲と課題を解決する能力の育成を図り、『学ぶことの楽しさ』や『わかる喜び』を教師と生徒が共有しあえる関係づくりと「わかる授業」の指導法の研究を進めていく。